

2020 年度申請

初級地域公共政策士・資格教育プログラム

「自己点検評価書」

プログラム名 都市政策基礎能力プログラム

実施機関名 龍谷大学

序章

プログラム概要（運営・実施体制）

プログラム名	都市政策基礎能力プログラム		
対応資格	初級地域公共政策士		
EQF レベル	レベル6		
構成科目数	21	取得ポイント 数	12
本プログラムの社会的認証期間	2021（令和3）年4月～2028（令和10）年3月末日		

実施機関名	龍谷大学		
実施部門	政策学部		
プログラム実施責任者	大田 直史（政策学部長）		
プログラム担当者	今里 佳奈子（政策学部教務主任）		
事務担当者	橋本 昌樹（政策学部教務課）		
事務担当者連絡先	電話番号：075-645-2285	Email：seisaku@ad.ryukoku.ac.jp	
備考			

更新する資格教育プログラムの修了者数

(西暦)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
修了者数	20名	42名	26名	54名	35名	44名	92名

更新する資格教育プログラム科目の開講表

(西暦)		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
科目名		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	地域・都市政策総論	○	○	○	○	○	○	○
2	都市計画論	○	○	○	○	○	○	○
3	地域経済学	○	○	○	○	○	○	○
4	財政学	○	○	○	○	○	○	○
5	景観・まちなみ保存政策	○	○	○	○	○	○	○
6	文化・観光政策	○	○	○	○	○	○	○
7	欧州の地域・都市政策	○	○	○	○	○	○	○
8	米国の地域・都市政策	○	○	○	○	○	○	○
9	キャリア・コミュニケーション演習 ※2014年度以前の 入学生は「コミュニケーション 演習Ⅰ」	○	○	○	○	○	○	○
10	政策学研究発展演習Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○
11	政策学研究発展演習Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○
12	政策学研究発展演習Ⅴ	○	○	○	○	○	○	○
13	政策実践・探究演習ⅠA(国内) ※2014年度前後期 受講生は「政策実践・ 探究演習ⅠA」	○	○	○	○	○	○	○
14	政策実践・探究演習	—	○	○	○	○	○	○

	IIA (国内)							
15	政策実践・探究演習 IA (海外)	—	○ (追加)	○	○	○	○	○ (コロナ で中止)
16	政策実践・探究演習 IIA (海外)	—	— (追加)	○	○	○	○	○ (コロナ で中止)
17	政策実践・探究演習 IB (国内)	—	× (追加)	×	×	×	×	×
18	政策実践・探究演習 IIB (国内)	—	— (追加)	×	×	×	×	×
19	政策実践・探究演習 IB (海外)	○	○	×	×	×	×	○ (コロナ で中止)
20	政策実践・探究演習 IIB (海外)	—	×	×	×	×	×	×
21	Glocal Action Program	—	—	—	—	○ (追加)	○	○

注① 「政策実践・探究演習 I AIIA (国内)」「政策実践・探究演習 I BIIA (国内)」「政策実践・探究演習 I AIIA (海外)」「政策実践・探究演習 I BIIA (海外)」
Aは前・後期開講、Bは後・前期開講(4単位)または後期集中開講(2単位)の差で科目名が異なる。
(国内)については、プロジェクトはいくつかあるがAもBも同講義。
(海外)についてはAとBでフィールドが異なるため別講義。

注② 「政策実践・探究演習II」は先修制を定めており、Iの修得が履修の要件となる。

軽微な変更の申請状況

	申請日	申請の種別	概要
1	2015年8月3日	科目担当者の変更	① 政策学研究発展演習Ⅲの科目担当者が、堀尾 正靱・金紅実から矢作弘・阿部大輔へ変更した。 ② 政策学研究発展演習Ⅳの科目担当者が、堀尾 正靱・金紅実から矢作弘・阿部大輔へ変更した。 ③ 政策学研究発展演習Ⅴの科目担当者が、堀尾 正靱・金紅実から矢作弘・阿部大輔へ変更した。
2	2015年8月3日	科目名の変更	コミュニケーション応用演習Ⅰの科目名が、キャリア・コミュニケーション演習へ変更した。
3	2015年8月3日	科目名の変更	① 政策実践・探究演習ⅠAが政策実践・探究演習ⅠA(国内)へ変更した。 ② 政策実践・探究演習ⅠBが政策実践・探究演習ⅠB(海外)へ変更した。 ③ 政策実践・探究演習ⅡAが政策実践・探究演習ⅡA(国内)へ変更した。

			④ 政策実践・探究演習ⅡBが政策実践・探究演習ⅡB(海外)へ変更した。
4	2015年8月3日	AL要素を含む科目の追加	① 政策実践・探究演習ⅠB(国内)(担当:只友景士・清水万由子)の科目が追加された。 ② 政策実践・探究演習ⅡB(国内)(担当:只友景士・清水万由子)の科目が追加された。 ③ 政策実践・探究演習ⅠA(海外)(担当:金紅実、谷垣岳人)の科目が追加された。 ④ 政策実践・探究演習ⅡA(海外)(担当:金紅実、谷垣岳人)の科目が追加された。
5	2018年5月21日	科目担当者の変更	地域・都市政策総論の科目担当者が、矢作弘から服部圭郎へ変更した。
6	2018年5月21日	科目担当者の変更	地域経済学の科目担当者が、中村剛治郎から金淳植へ変更した。
7	2018年5月21日	科目担当者の変更	米国の地域・都市政策の科目担当者が、矢作弘から青山公三へ変更した。
8	2018年5月21日	科目担当者の変更	景観・まちなみ保存政策の科目担当者が、福島貞道から松田彰へ変更した。
9	2018年5月21日	科目担当者の変更	① 政策学研究発展演習Ⅲの科目担当者が、矢作弘・阿部大輔から大島堅一・土山希美枝へ変更した。 ② 政策学研究発展演習Ⅳの科目担当者が、矢作弘・阿部大輔から大島堅一・土山希美枝へ変更した。 ③ 政策学研究発展演習Ⅴの科目担当者が、矢作弘・阿部大輔から大島堅一・土山希美枝へ変更した。
10	2018年11月22日	科目の追加	Glocal Action Program
11	2020年7月30日	科目担当者の変更(2019)	地域経済学の科目担当者が、金淳植から石倉研へ変更した。
12	2020年7月30日	科目担当者の変更(2019)	景観・まちなみ保存政策の科目担当者が、松田彰から井上典子へ変更した。
13	2020年7月30日	科目担当者の変更(2020)	米国の地域・都市政策の科目担当者が、青山公三から服部圭郎へ変更した。
14	2020年7月30日	科目担当者の変更(2019)	① 政策学研究発展演習Ⅲの科目担当者が、大島堅一・土山希美枝から土山希美枝・石倉研へ変更した。

			<p>② 政策学研究発展演習Ⅳの科目担当者が、大島堅一・土山希美枝から土山希美枝・石倉研へ変更した。</p> <p>③ 政策学研究発展演習Ⅴの科目担当者が、大島堅一・土山希美枝から土山希美枝・石倉研へ変更した。</p>
15	2020年7月30日	科目担当者の変更(2020)	<p>① 政策学研究発展演習Ⅲの科目担当者が、土山希美枝・石倉研から石原凌河・地頭所里紗へ変更した。</p> <p>② 政策学研究発展演習Ⅳの科目担当者が、土山希美枝・石倉研から土山希美枝・地頭所里紗へ変更した。</p> <p>③ 政策学研究発展演習Ⅴの科目担当者が、土山希美枝・石倉研から石原凌河・地頭所里紗へ変更した。</p>
16	2020年7月30日	科目担当の変更(2019)	政策実践・探究演習ⅠA(海外)の科目担当者が金紅実・谷垣岳人から金紅実・安周永/石原凌河・村田和代に変更した。
17	2020年7月30日	科目担当の変更(2020)	政策実践・探究演習ⅠA(海外)の科目担当者が金紅実・安周永/石原凌河・村田和代から金紅実/中森孝文・大石尚子に変更した。
18	2020年7月30日	科目担当の変更(2019)	政策実践・探究演習ⅡA(海外)の科目担当者が金紅実・谷垣岳人から金紅実・安周永/石原凌河・村田和代に変更した。
19	2020年7月30日	科目担当の変更(2020)	政策実践・探究演習ⅡA(海外)の科目担当者が金紅実・安周永/石原凌河・村田和代から金紅実/中森孝文・大石尚子に変更した。

更新する教育プログラムの特徴

資格教育プログラムの概要

本プログラムは、まち、都市という、多様な人びとが住まう地域をめぐる政策を、都市の特性の理解を持ちながら、課題を捉え、政策を構想し、実践に取り組み得る基礎となる能力の獲得を目標としている。

また、講義や演習科目を通じて、世界と地域社会の関係、様々な政策や地域活動の分析と評価に関する理解力(知識)、地域課題の解決に必要な要素を特定、利害関係者間の調整と協働関係を構築、解決策の提示及び適用ができる力(技能)、地域社会における特定のプロジェクト策定を主導し、課題解決のために必要な社会資源を調達することができる力(職務遂行能力)を身につけ、地域・都市に活力をもたらすために、他者と連携、協力して地域社会の課題解決を目指し、協働型社会の一員となりうる人材を育成する。

特色ある取り組み(自由記述)

1) 学部科目の系統的配置

本プログラムの科目は、学部教育の専攻基本・専攻コース科目によって構成されており、当該科目は系統的に配置され、学部教育と連動していることが最大の特色である。

2) 多様な学修者によるアクティブラーニング科目

本プログラムのアクティブラーニングについては、学部の多様な学年及び大学院修士課程までの学生が学びあう設計になっている。この設計は、本学部設置以前から龍谷大学法学部における「地域政策発展演習」で実践されてきた流れを継承し、上級生・大学院生の経験や高度な専門性に下級生が刺激を受け、学修が支援され、また、下級生の存在や新鮮な発想が上級生や大学院生の一層の成長につながるといった相乗効果を意図している。

3) 多彩な地域連携科目

本プログラムのフィールドは多彩である。特に、PBL科目「政策実践・探究演習(国内)」では、京都府京丹後市、福知山市、亀岡市、滋賀県守山市、兵庫県洲本市をフィールドとするプロジェクトの中から選択することができる。プロジェクトの多くが環境保全をテーマとしており、地域の特性を活かした取組を学ぶことができる。

4) 都市政策の専門的学修プログラム

本プログラムは1回生から都市政策に関する科目の履修を開始し、上回生になるにつれアクティブラーニング要素も取り入れている。都市政策について基礎から多面的・専門的に学べるプログラムとなっている。

1 資格教育プログラムの目的・教育目標・学習アウトカム

1-1-1. 目的・教育目標

本プログラムは、政策学部地域・都市政策プログラムのコース科目を主として構成しており、政策構想コース所属学生を中心に幅広い学習者を想定している。政策課題としての社会問題は、地域再生、雇用・福祉、持続可能な発展など多岐にわたる。課題解決のためには、世界と日本、政府と地方自治体、地方行政と地域社会など、グローバルな視点からローカル、個人に至るまで複雑に入り組んだ関係を理解しなければならない。地域、まち、都市は、政策課題の発生源として重要性を増しており、多様な政策主体の連携協力による政策展開の現場そのものである。人口の大小に関わらず社会は都市化しており、都市政策は政策学において重要な領域である。

本プログラムの目標は、まち、都市という、多様な人びとが住まう地域をめぐる政策を、都市の特性の理解を持ちながら、課題を捉え、政策を構想し、実践に取り組み得る基礎となる能力の獲得にある。都市の構造また都市政策の歴史および概要の学修、都市政策の基盤となる経済また財政の学修、景観や文化など都市の個性に根ざした具体的な政策の学修、得られた知見を分析や議論、実践を通じて自らのものにするような内容となっている。(497字)

添付資料の該当箇所

添付資料 1-2 2020 年度政策学部履修要項 P54-55 (政策構想コース)

添付資料 2-2 2020 年度政策学部履修要項 P80-81 (都市政策基礎能力プログラム)

1-1-II. 資格教育プログラムの学習アウトカム

達成目標	[6-0-1] 地域社会に関する様々な理論・政策・地域活動を適切に組み合わせ活用することができる
知識	[6-1-1] グローバル化する世界と地域社会の関係を理解している、 [6-1-2] 様々な政策や地域の活動を対象とする客観的な分析と評価を理解している
技能	[6-2-1] 地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用ができる [6-2-3] 対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築ができる
職務遂行能力	[6-3-1] 地域社会における特定の計画やプロジェクト策定を主導することができる [6-3-3] 課題の解決のために必要な社会的資源を調達することができる

1-1-III. 資格教育プログラムで育成する人材像

本プログラムの受講対象者は、政策学部2年次生以上もしくはそれと同等の能力があると政策学部が認める者としている。

育成する人材像については、地域再生、雇用・福祉、持続可能な発展など多岐にわたる政策課題について、世界と日本、政府と地方自治体、地方行政と地域社会などグローバルからローカル、個人に至る複雑な関係を理解し、政策課題の解決能力を身につけた実社会で役立つ人材である。

本プログラムの履修により、グローバル化する世界と地域社会の関係の理解、対象となる課題群の相互関係の把握と分析（知識）、地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用、対象となる業務の信仰に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築（技能）、地域社会における特定の計画やプロジェクト策定への主導、課題の解決のために必要な社会的資源の調達（職務遂行能力）を身につけることをアウトカムとして設定している。

本プログラムを修了した者が活躍する領域として、地域政策に関わる地方公務員、地域社会への貢献を目指す企業、観光やメディアに関わる企業、地域経済に活力をもたらす金融機関等が想定される。（500字）

添付資料の該当箇所

1-1-Iと同様の添付資料となるため省略

1-1-IV. プログラムの広報

本プログラムは基本的に政策学部生を対象としていることから、入学時生に発行する政策学部履修要項において資格制度の説明、本プログラムの目的・教育目標、学習アウトカム、育成する人材像などについて掲載した。また、毎学期実施する履修説明会においても別途説明資料を用意し、2年生以上については資格取得意思のある学生に対し「意思確認書」を提出するよう説明を行った。併せて学内のポータルサイトのお知らせに掲載した。学部HPにおいても本資格制度について掲載し、広く周知するとともに地域公共政策士資格制度の普及やプログラム受講者数の増を目指した。

添付資料の該当箇所

添付資料3 2020年度政策学部履修要項P78（地域公共政策士）

添付資料2-2 2020年度政策学部履修要項P80-81（都市政策基礎能力プログラム）

添付資料4 履修説明会資料

添付資料5-2 意思確認書（環境政策基礎能力プログラム）

参考URL：<http://www.policy.ryukoku.ac.jp/about/regional.html>

2 資格教育プログラムの内容

2-1-I. 資格教育プログラムに設置する科目（※添付資料：シラバス等）

構成科目名	担当者名	ポイント	履修時間	開講時期	科目設定	教育要素設定	備考
1 地域・都市政策総論	服部 圭郎	2	22.5時間	4月～7月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策研究の基礎知識	地域や都市のあり方や構造を見る知識や視角の基礎を学ぶ。
2 都市計画論	阿部 大輔	2	22.5時間	4月～7月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策研究の基礎知識	地域や都市のあり方や構造を見る知識や視角の基礎を学ぶ。
3 地域経済学	石倉 研	2	22.5時間	4月～7月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策的思考法	地域と経済について、その問題性や構造の基礎を学ぶ。
4 財政学	只友 景士	2	22.5時間	4月～7月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策的思考法	地域と経済について、その問題性や構造の基礎を学ぶ。
5 景観・まちなみ保存政策	井上 典子	2	22.5時間	4月～7月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策得意分野づくり	地域の政策課題とそのとりくみ事例を学ぶ。
6 文化・観光政策	阿部 大輔	2	22.5時間	9月～1月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策得意分野づくり	地域の政策課題とそのとりくみ事例を学ぶ。
7 欧州の地域・都市政策	阿部 大輔	2	22.5時間	4月～7月 3年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策得意分野づくり	地域の政策課題とそのとりくみ事例を学ぶ。
8 米国の地域・都市政策	服部 圭郎	2	22.5時間	4月～7月 3年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策得意分野づくり	地域の政策課題とそのとりくみ事例を学ぶ。
9 キャリア・コミュニケーション演習※2014年度以前の入学生は「コミュニケーション応用演習Ⅰ」	村田 和代 ※但し2021年 のみ担当者交替 (担当者未定)	2	22.5時間	9月～1月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
10 政策学研究発展演習Ⅲ	地頭所 里紗 大島 堅一	2	45時間	9月～1月 3年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム共通

11	政策学研究発展演習Ⅳ	金 紅実 石原 凌河	2	45 時間	4月～7月 4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム共通
12	政策学研究発展演習Ⅴ	地頭所 里紗 大島 堅一	2	45 時間	9月～1月 4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム共通
13	政策実践・探究演習ⅠA (国内) ※2014年度前後期受講生は「政策実践・探究演習ⅠA」	只友 景士 大石 尚子	2	45 時間	4月～1月 2年次～4年	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム共通
14	政策実践・探究演習ⅡA (国内)	只友 景士 大石 尚子	2	45 時間	4月～1月 3年次～4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム共通
15	政策実践・探究演習ⅠA (海外)	金 紅実	2	45 時間	4月～1月(集中) 2年次～4年	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
16	政策実践・探究演習ⅡA (海外)	金 紅実	2	45 時間	4月～1月(集中) 3年次～4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
17	政策実践・探究演習ⅠB (海外)	服部 圭郎	2	22.5 時間	9月～3月(集中) 2年次～4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
18	政策実践・探究演習ⅡB (海外)	服部 圭郎	2	22.5 時間	9月～3月(集中) 3年次～4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
19	Glocal Action Program	深尾 昌峰 三木 俊和	2		4月～3月 1年次～3年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※環境政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通

2-1-II. 資格教育プログラムの体系図

【都市政策基礎能力プログラム・科目体系図】			1回生		2回生		3回生		4回生		
ねらい	修了要件 (計6科目 12ポイント 以上)		後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
				第3 セメスター	第4 セメスター	第5 セメスター	第6 セメスター	第7 セメスター	第8 セメスター		
			◎	地域や都市のあり方や構造を見る知識や資格の基礎を学ぶ	1科目 2ポイント 以上		地域・都市政策総論				
□	地域と経済について、その問題性や構造の基礎を学ぶ	1科目 2ポイント 以上		都市計画論							
				地域経済学							
				財政学							
△	地域の政策課題とその取り組み事例を学ぶ	1科目 2ポイント 以上		景観・まちなみ保存政策							
				文化・観光政策							
						欧州の地域・都市政策					
						米国の地域・都市政策					
※	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを主体的に学び、企画・実践力を養う	1科目 2ポイント 以上		Glocal Action Program							
				政策実践探究演習 I A (国内・海外)							
				政策実践探究演習 I B (海外)							
				キャリア・コミュニケーション演習							
						政策実践探究演習 II A (国内・海外)					
						政策実践探究演習 II B (海外)					
						政策学研究発展演習 III					
						政策学研究発展演習 IV					
						政策学研究発展演習 V					

【図の説明】

本プログラムの目的・教育目的に対応するため、以下のような体系性をもって構成している。

- ・地域や都市のあり方や構造を見る知識や資格の基礎を学ぶ「地域・都市政策総論」「都市計画論」は、以降の科目の基盤となることから、2回生前期から履修を可能としている。
- ・地域と経済について、その問題性や構造の基礎を学ぶ「地域経済学」、「財政学」も、基礎理論の修得をめざしていることから、2回生前期に配置している。
- ・地域の政策課題とその取り組み事例を学ぶ科目群としては、2回生前期で概要および基礎理論を得てから展開される。「景観・まちなみ保存政策」については2回生前期、「文化・観光政策」については2回生後期、「欧州の地域・都市政策」「米国の地域・都市政策」は3回生前期に配置している。
- ・得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを主体的に学び、企画・実践力を養う演習科目としては、「政策実践・探究演習 I II (国内・海外)」を2回生から4回生まで、「キャリア・コミュニケーション演習」を2回生後期、「政策学研究発展演習 III、IV、V」を3回生後期から半期ごとに4回生後期まで開設している。

なお、キャリア・コミュニケーション演習、政策学研究発展演習、政策実践・探究演習 I II (国内・海外) は大学院の科目としても開講しており、学部生と院生が同じ演習で学びあう科目として機能している。

このように、資格教育プログラムとして展開される科目は、学部における系統的履修、体系的履修にも対応しており、学習者は一部の科目を除き学部の2回生から4回生にかけてこれらの科目を履修する。その内容は学部の専攻科目の水準を保持しており、学部学生は2年間ないし3年間をかけてプログラムを修得することとなる。

修得ポイント数は各講義科目が2ポイントであり、学部における修得単位2単位に相当する。ただし、演習科目については学部では4単位であるが本プログラムでは2ポイントとしており、十分な修得期間および内容を担保することとしている。

2-2- I. 学習アウトアムの達成に向けた教育内容の説明

知識

〔6-1-1〕 グローバル化する世界と地域社会の関係を理解している	
地域・都市政策総論	本講義では、都市や地域に多くの人が集住することで生じる課題・可能性を提示し、これまでどのように政策的に取り組んできたのかを踏まえて、これからの都市・地域の課題に将来取り組む学生自身の取り組む姿勢、考え方、態度を学ぶ。
	<ul style="list-style-type: none"> ① 持続型の都市に関する基礎知識・コンセプトを理解できましたか。 ② 地域政策論の基礎知識・コンセプトを理解できましたか。 ③ 都市・地域を持続可能にするための方策について理解できましたか。
都市計画論	本講義では、都市計画の「制度と手法の歴史的展開をたどりながら、都市計画の基礎的概念と都市計画の立案にかかわる手法（土地区画整理、地区計画、景観計画など）を理解することを目的とする。また、歴史的市街地の保全から大規模再開発に至るまで、国内外の都市デザインの潮流を概説し、数多くの事例を紹介することで、魅力的かつ持続的な都市の空間構成を理解し、自ら実現方法を考えるための基礎的素養を習得する。
	<ul style="list-style-type: none"> ① 国内外の都市計画の系譜を理解できましたか。 ② 都市問題の所在と要因、それに対する計画技術の特徴を理解できましたか。 ③ 都市計画とまちづくりの関係性を学ぶことができましたか。
地域経済学	本講義では、地域経済学に関する基本的な概念や理論を説明をした上で、地域問題と地域政策、地域経済の持続可能性というトピックを取り上げる。地域経済学が地域問題をどのように取り上げて来たか、またどのような処方箋を生み出して来たかをふまえつつ、現実の地域問題や地域経済政策の特徴や課題などについても解説する。
	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域経済に関する基本的な知識を得ることができましたか。 ② 地域問題や地域経済政策についての理解を深めることができましたか。 ③ 今後の地域経済のあり方について、自分自身の考えをまとめることができましたか。
財政学	本講義では、現代の公共政策を考える上で必須の素養である財政学的考え方を習得することを目標とする。現在s 財政問題への入門的な解説から始め、公共財の理論、租税論、公債論、予算論、財政思想史など財政学の基礎を習得する。民主主義社会における財政とシチズンシップについても考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ① 政府が存在する理由、財政の果たす役割について説明できますか。 ② 財政学の基礎理論を理解できましたか。 ③ 現代日本の財政制度と財政政策への理解が深まりましたか。

〔6-1-2〕 様々な政策や地域の活動を対象とする客観的な分析と評価を理解している	
景観・まちなみ保存政策	<p>本講義は、地域景観の構成要素を自然、土地利用、都市構造、建造物等の有名のもの、生産活動、人間活動などの観点から把握し、それぞれどのような施策が適用されているのか、どのような課題があるのかを学ぶ。地域の現状に着目し、地域の実態としての地域景観問題を認識し、その変化と地域の社会経済的特徴との相互関係について理解を深める。国内外の事例から、地域景観の保全が地域の再編・再生にどのような影響を与えうるのか、地域景観の保全と新たな創出の可能性について考える。</p>
	<p>① 地域景観に関連した法制について学び、課題を抽出することができますか。</p> <p>② 地域景観の保全等に関する国内外の事例への理解は深まりましたか。</p> <p>③ 地域景観の保全と新たな創出の可能性について論じることができますか。</p>
文化・観光政策	<p>本講義の前半では、芸術文化マネジメントや文化産業の可能性といった文化政策を論じる。後半では、環境資源の最適な利用や地域社会の文化の保全・活用が重要なテーマとなっている観光政策を論じる。最後に、両者をつなぐ「まちづくり」の観点から、今後の地域における文化・観光政策を総合的に論じる。</p>
	<p>① 成熟都市における文化政策・観光政策の様相を理解しましたか。</p> <p>② 持続可能な地域づくりにおける文化ならびに観光の役割、可能性を考えることができましたか。</p>
欧州の地域・都市政策	<p>本講義は、欧州連合（EU）を中心とするヨーロッパの地域・都市政策の系譜・現状・展望について多角的な視点から議論する。都市と建築、そして都市空間を部第二展開される様々なアクティビティ（活動）、社会的包摂と空間再生の統合的アプローチを切り口として、現代ヨーロッパ都市の実像・群像に迫る。前半では、欧州都市を理解するためのいくつかの視点を示し、近代から現代にかけての多様な都市さ姿勢の取組を紹介しながら、都市間競争に直面する欧州都市において都市の意味がどのように変容しつつあるのかを解説する。後半は、具体的な事例を通して「都市のかたち」を読み解き、ヨーロッパにおける都市の意味、都市に住むことの意味を考察する。</p>
	<p>① 欧州レベルの地域・都市政策の規定にある考え方を理解しましたか。</p> <p>② 事例の学習を通して、欧州各国・諸地域・諸都市が抱える都市問題とそれに対応する政策や計画技術を理解しましたか。</p> <p>③ 現代ヨーロッパの地域・都市のダイナミズムを様々な分野、視点から読み解くことで、「都市」のもつ本来の意味、魅力を考察しましたか。</p>
米国の地域・都市政策	<p>本講義では、アメリカ合衆国および南北アメリカ大陸における地域・都市政策を学ぶ。日本と比べ、アメリカ合衆国は各州で政策が大きく異なり、自治体の裁量が大きく、そのことによる課題・制約等についても理解する。アメリカ合衆国以外の事例も紹介し、特にブラジルの都市・地域政策についても</p>

	取り上げる。
	① アメリカ合衆国をはじめ南北アメリカ大陸における地域・都市政策を学ぶことができましたか。
	② アメリカと日本の政策を比較することで、日本の政策を客観的に評価する視座を獲得できましたか。

技能

〔6-2-1〕 地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用ができる	
キャリア・コミュニケーション演習	<p>本科目は学部生と大学院生の合同科目で、アクティブラーニング、ワークショップ形式で進める。参加・協働型社会に求められる実践的なコミュニケーション能力の習得をめざす。年次を超えた受講生の学び合いにより、上級生は指導的立場を経験し、下級生は研究方法・研究姿勢を身に付けることができる。</p> <p>① アクティブラーニングを通して、参加・協働型社会に求められる実践的なコミュニケーション能力は向上しましたか。</p> <p>② 実践的なコミュニケーション能力を地域での実践力につなげることができますか。</p>
政策学研究発展演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	<p>本演習は、2回生から大学院生まで多様な受講生のもとさまざまな政策課題から自分のテーマを見つけ、調査・考察し一つの論文を書き上げることが本演習の流れである。論理的思考を表現する文章力を身につけ、実践や知識を得るだけでなく、「伝える」力を育てることができる。</p> <p>① 自分のテーマ・課題を設定し、文献、論文、資料を集めて読み解き、データをふまえて分析し、必要に応じて取材や情報公開請求を行いましたか。</p> <p>② 成果発表の資料作成、議論を通じて矢面的な視野と根拠に基づいた思考ができるようになりましたか。</p> <p>多様な政策課題への理解をもった政策研究を行い、論文にまとめることができましたか。</p>
〔6-2-3〕 対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築ができる	
Glocal Action Program	<p>地域課題を自ら抽出し・設定し、地域の現状把握を行った上で課題解決に向けた仮説の提示、アウトカム実現に向けたアクションプランの策定に必要な力を身につける。地域の多様なステークホルダーとのコミュニケーションや調整を学生が主体的に行う。</p> <p>① 地域課題についての理解が深まりましたか。</p> <p>② 課題解決に向けたアクションプランを策定できましたか。</p> <p>③ 地域の多様なステークホルダーと協働関係を構築できましたか。</p>

職務遂行能力

〔6-3-1〕 地域社会における特定の計画やプロジェクト策定を主導することができる	
政策実践・探究演習（国内） IA	<p>本演習は、地域における調査研究及び政策実践を行い、人類的及び地域課題を発見し、その課題を他者と協働して解決することのできる協働社会づくりに不可欠な人材育成を行う。本科目の特徴は、①全体講義と複数の地域での個別プロジェクト活動の組み合わせとなっていること ②学部2回生から大学院生までの受講生がそれぞれの段階に応じて異なる到達目標と役割をもって共に学び合うこと ③実際の地域課題に対して、受講生が自ら課題を分析し、連携先との協働により解決策を企画・実施すること である。こうした学びから論理的思考力、表現力、マネジメント能力などを身につけることができる。</p>
	<p>① 文献資料、データベース、ヒアリングデータ等を活用して、地域における課題を調べることができますか。</p> <p>② 現地でのプロジェクト活動を企画・立案し、実施し、プロジェクトマネジメント能力が身につきましたか。</p> <p>③ 調査研究及びプロジェクト活動の成果をまとめて論理的なプレゼンテーションを行うことができますか。</p> <p>他者との関わりの中で、自らの学びを振り返ることができますか。</p>
政策実践・探究演習（海外） IA	<p>本演習は、地域の自然資源の価値を再評価し利活用することを通じて、人と自然の持続可能な共存関係を構築するのに必要な条件を海外の大学生との相互訪問型の研修プログラムを軸に、国際的な視野に立ち内発的発展のための政策提言をおこなう。2回生から大学院生までの多様な学生が学び合い、語学研修とは異なるアプローチでの海外フィールドワークを行う。</p>
	<p>① グローバル化時代の地域社会の課題を発見し、課題解決に必要な専門知識を習得しましたか。</p> <p>② 国際的な視点をもって、地域社会の問題解決に取り組む能力を身につけましたか。</p> <p>異文化理解や国際的なコミュニケーション能力を養うことができましたか。</p>
政策実践・探究演習（海外） IB	<p>本演習は、「サステイナブル・デザイン」のコンセプト、そのコンセプトを支える背景となる考え方の一連の講義、さらに、その先進的实践事例を学ぶ海外フィールドワークから構成される。サステイナブル・デザインの要素として、「持続的住まい」「持続的交通（脱自動車）」「持続的農業」「持続力を増す多様な社会」「持続的な土地利用」などについて学ぶ。事前学習・海外フィールドワークにより英語力を養うとともに、帰国後には現地での学びを整理し発表するプロセスを通じて、学びの言語化、共有化を図る。</p>
	<p>① サステイナブル・デザインのコンセプトを理解していますか。</p> <p>② ①のコンセプトを支える背景となる考えを理解していますか。</p> <p>グローバルな観点から持続型社会を構築するための方法論の基礎を理解していますか。</p>

〔6-3-3〕 課題の解決のために必要な社会的資源を調達することができる	
政策実践・探究演習（国内）ⅡA	<p>本科目は、地域における調査研究及び政策実践を行い、人類的及び地域課題を発見し、その課題を他者と協働して解決することのできる協働社会づくりに不可欠な人材育成を行う。本科目の特徴は、①全体講義と複数の地域での個別プロジェクト活動の組み合わせとなっていること ②学部2回生から大学院生までの受講生がそれぞれの段階に応じて異なる到達目標と役割をもって共に学び合うこと ③実際の地域課題に対して、受講生が自ら課題を分析し、連携先との協働により解決策を企画・実施すること である。こうした学びから論理的思考力、表現力、マネジメント能力などを身につけることができる。</p> <p>履修2年目のⅡA受講生は個別プロジェクトマネジメントに主導的にかかわるとともに、全体講義において大学院生とともに他のプロジェクトの成果評価を行う。</p> <p>① 文献資料、データベース、ヒアリングデータ等を適切に活用することができますか。</p> <p>② 現地でのプロジェクト活動を主導的に企画・立案することができ、チームビルディングなど、プロジェクトマネジメント能力が身につきましたか。</p> <p>③ 調査研究及びプロジェクト活動の成果をまとめて論理的なプレゼンテーションの構成を考えることができますか。</p> <p>他者との関わりの中で得た学びを言語化することができますか。</p>
政策実践・探究演習（海外）ⅡA	<p>本科目は、地域の自然資源の価値を再評価し活用することを通じて、人と自然の持続可能な共存関係を構築するのに必要な条件を海外の大学生との相互訪問型の研修プログラムを軸に、国際的な視野に立ち内発的発展のための政策提言をおこなう。2回生から大学院生までの多様な学生が学び合い、語学研修とは異なるアプローチでの海外フィールドワークを行う。</p> <p>① グローバル化時代の地域社会の課題発見・分析能力をさらに向上させ、必要な専門知識を体系的に習得しましたか。</p> <p>② 国際的な視点をもって、地域社会の問題解決に取り組む能力と異文化理解や国際的なコミュニケーション能力を習得しましたか。</p> <p>③ 自らの言語による自己成長プロセスを客観的に評価できますか。</p>
政策実践・探究演習（海外）ⅡB	<p>本演習は、「サステイナブル・デザイン」のコンセプト、そのコンセプトを支える背景となる考え方の一連の講義、さらに、その先進的实践事例を学ぶ海外フィールドワークから構成される。サステイナブル・デザインの要素として、「持続的住まい」「持続的交通（脱自動車）」「持続的農業」「持続力を増す多様な社会」「持続的な土地利用」などについて学ぶ。事前学習・海外フィールドワークにより英語力を養うとともに、帰国後には現地での学びを整理し発表するプロセスを通じて、学びの言語化、共有化を図る。</p> <p>ⅡB受講生はリーダー的役割を担う。</p>

	<p>① サステイナブル・デザインのコンセプトを理解し他者に説明できますか。</p> <p>② ①のコンセプトを支える背景となる考えを理解し他者に説明できますか。</p> <p>③ グローバルな観点から持続型社会を構築するための方法を提言することができますか。</p>
--	--

2-2-Ⅱ. 教育・指導方法におけるプログラム全体の特徴

本プログラムは学部専門科目の系統的配置のもとに、学部教育と連動している。科目の内容と教育の方法は評価基準とともにシラバスにおいて明示され、適切な実施を担保している。シラバスは Web でも閲覧可能であり、毎年度ごとに学部における自己点検・評価によって科目の内容、教育の方法が適切であるか確認される仕組みが整っている。

学年を超えた学習者の学びのコミュニティを形成し、上級生と下級生が地域での活動を通して学び合うようなアクティブラーニング、地域連携型 PBL を特色としている。

都市政策について系統的に基礎から多面的・専門的に学べるプログラム設計となっており、学習者は、グローバル化する世界と地域の関係を理解し、都市政策、持続可能な都市に必要な手段・方法の提示、課題解決に向けた都市政策についての提言ができる能力を身に付けることができる。

2-3. 対象とする学習者と開講形態

本プログラムは、一義的には龍谷大学政策学部生を対象としている。本学部では 2 回生後期からコース制をひき、政策構想コース、環境創造コース、地域公共人材コースがおかれている。政策構想コースさらに科目群として地域・都市政策プログラム、比較政策プログラムをおいているが、本プログラムは、政策学部の地域・都市政策プログラムにおかれる科目を主として構成しており、主に現代社会における地域や都市の問題に関心のある政策構想コース所属の学生を広く本プログラムの学習者として想定している。ただ、政策学における都市政策の重要性からみると、都市政策の課題、政策構想、実践にいたる基礎能力は、同コースの履修者にとどまらず、他のコースにも求められるものであり、科目履修も可能となっている。特に、地域公共人材コースは、地域政策の担い手を育てるコースでもあり、本プログラムの履修を勧めたい。

資格教育プログラムとして展開される科目は、学部における系統的履修、体系的履修にも対応しており、学習者は一部の科目を除き学部の 2 回生から 4 回生にかけてこれらの科目を履修する。学部の 2 回生から履修可能としているが、その内容は学部の専攻科目の水準を保っており、学部学生は 2～3 年間をかけてプログラムを修得することとなる。

プログラムの修了に必要なポイント数は 12 ポイントであり、本プログラムの教育目標に照らして十分な質量と考える。修得ポイント数は各講義科目が 2 ポイントであり、学部における修得単位 2 単位に相当する。

ただし、一部の演習科目については学部では 4 単位であるが、本プログラムでは 2 ポイントとしており、十分な修得期間および内容を担保することとしている。

2-4. 学習者への周知

本プログラムは基本的に政策学部生を対象としていることから、入学時生に発行する政策学部履修要項において資格制度の説明、本プログラムの目的・教育目標、学習アウトカム、科目一覧、対象者、育成する人材像などについて掲載する。また、毎学期実施する履修説明会においても別途説明資料を用意し、2年生以上については各学期開始前に資格取得意思のある学生に対し「意思確認書」を提出するよう説明を行う。併せて学内のポータルサイトのお知らせに掲載する。学部 HP においても本資格制度について掲載し、広く周知するとともに地域公共政策士資格制度の普及やプログラム受講者数の増を目指す。(現時点 2021 年度政策学部履修要項作成中のため、2020 年度政策学部履修要項を添付資料とする。)

添付資料の該当箇所

1-1-IVと同様の添付資料となるため省略

3. 学習効果の測定

3-1-I. 成績評価方法と学習者への明示

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちひとつまたは複数を組み合わせて評価される。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められている。その内容はシラバスに明示することとしている。

- ①筆頭試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価（学習ポートフォリオを活用した評価を含む）

また、基準については100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とすることを基本的な基準としている。なお、成績評価について疑義がある場合、学生が所定の「成績疑義申出用紙」によって申し出られる制度も用意している。これら成績評価については、履修要項に明示されている。

添付資料の該当箇所

添付資料7 2020年度政策学部履修要項P22（成績評価）

添付資料8 2020年度政策学部履修要項P23（成績疑義）

添付資料9 成績疑義の受付について

添付資料10 成績疑義申請方法

3-1-II. ポイント認定の基準

本プログラムの目的・教育目標に対応して構成される各科目は、それぞれ達成目標をもち、評価基準をそれぞれの担当者が策定する。その評価基準はシラバスによって学習者に明示され、学期末に所定の方法で評価し、本プログラムのポイント認定評価となる。

資格教育プログラムの教育目的、ポイント認定の基準および方法については、学習者に説明資料等であらかじめ明示する。演習科目（「政策学実践・探究演習ⅠⅡA B（国内・海外）」、「政策学研究発展演習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」）は学部の履修単位4単位に対し、プログラムで修得するポイントは2ポイントであるが、このことも明示する。

評価およびポイント認定は担当者により学習者に対し行われるが、3-1-Iに明示した通り、本学部には成績疑義評価制度があり評価の適切性を担保している。

添付資料の該当箇所

3-1-Iと同様の添付資料となるため省略

3-2. 外部機関との連携と評価

本プログラムにおいては、外部機関と連携した科目等は設置していない。

添付資料の該当箇所 なし

3-3- I.学習アウトカムを評価する基準と方法

2011年に発足した本学部では、本プログラム科目だけに限定されるものではないが、学部において学習者が学習成果を測るアンケートを毎年度実施している。各科目についても学生アンケートによる授業評価があり、成績疑義制度についても整備されている。

一部の科目においては、学習ポートフォリオによる学習記録を行う。学習者は、講義期間中に振り返りシートの記入を複数回行う。振り返りシートにおいては、「知識」、「技能」、「職務遂行能力」の3項目に「態度」を加えた4項目において、学習者は自己評価を行う。その自己評価の記述内容の統計的な分析を行うことで学生の学習アウトカムの評価を行う。

添付資料の該当箇所

添付資料 11 2020年度第2学期「学生による学期末の授業アンケート」の実施について

添付資料 12 学習ポートフォリオ（前期）

添付資料 13 学習ポートフォリオ（後期）

成績疑義については3-1-Iと同様の添付資料となるため省略

4. 資格教育プログラムの管理・運営体制

4-1. 管理・運営体制

資格教育プログラムの運営については、教務委員会、教授会の審議・承認を経て行う仕組みとなっており、プログラムを継続的かつ円滑に実施していくための体制を整えている。

本プログラムは、基本的に正課科目を利用したプログラムのため、教務委員会を中心に管理を行い、事務局については政策学部教務課及び地域協働総合センター（CeLC）が担い、教員と職員が連携しながら運営している。

添付資料の該当箇所 なし

4-2. 科目内容の点検・改善

プログラムの科目内容の点検・改善について、上記 4-1 の体制における運営の中で行われ、内容を充実させる仕組みになっている。また、教員活動の自己点検・評価制度も整備されており、毎年実施しており、それぞれの科目についても点検がなされている。

添付資料の該当箇所 なし

4-3. 学習者からの異議申立

3-1-I に明示した通り、各学期末の評価に対し大学として学習者の成績評価についての疑義申し立て制度が整っている。本プログラムを構成する各科目についても、成績疑義申し立て制度の対象となっており、その手順や期間は、履修要項やポータルサイトなどで明示されている。

添付資料の該当箇所

3-1-I と同様の添付資料となるため省略

5 教員及び講師

5-1 教員及び講師の構成

本プログラムの特徴は、学部学生に対し、都市政策の課題発見から政策の構想、実践を担い得る能力を育てるプログラムであるところにある。

専門性のまだ低い学習者が、その履修を通じて能力を獲得していけるように、学部の専任教員を主として科目を編成している。「景観・まちなみ保全政策」は非常勤教員を任用しているが、実務で当該分野においてすぐれた実績をもつ専門家であり、実践を担い得る能力の涵養につながるものである。

「議論や構想を通じて自らのものとする」演習科目では、学部生から院生までが演習で学びあう環境を担うに相応しい、教授（「キャリア・コミュニケーション演習」）あるいは教授・准教授の複数体制（「政策学研究発展演習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」「政策実践・探究演習ⅠⅡ（国内・海外）」）をとっており、教育プログラムの目的を達成するに相応しい教員集団によりプログラムを提供している。

5-2 教員・講師の指導能力

教員名	種別	担当科目	評価時使用欄
服部 圭郎	第1号教員	地域・都市政策総論 米国の地域・都市政策 政策実践・探究演習ⅠB(海外) 政策実践・探究演習ⅡB(海外)	
阿部 大輔	第1号教員	都市計画論 文化・観光政策 欧州の地域・都市政策	
石倉 研	第1号教員	地域経済学	
只友 景士	第1号教員	財政学 政策実践・探究演習ⅠA(国内) 政策実践・探究演習ⅡA(国内)	
井上 典子	第2号教員	景観・まちなみ保存政策	
大石 尚子	第1号教員	政策実践・探究演習ⅠA(国内) 政策実践・探究演習ⅡA(国内)	
村田 和代	第1号教員	キャリア・コミュニケーション演習	
金 紅実	第1号教員	政策実践・探究演習ⅠA(海外) 政策実践・探究演習ⅡA(海外) 政策学研究発展演習Ⅳ	
大島 堅一	第1号教員	政策学研究発展演習Ⅲ・Ⅴ	
地頭所 里紗	第1号教員	政策学研究発展演習Ⅲ・Ⅴ	
石原 凌河	第1号教員	政策学研究発展演習Ⅳ	
深尾 昌峰	第1号教員	Glocal Action Program	
三木 俊和	第4号教員	Glocal Action Program	

その他：学習者の受入れ状況と認証期間における開講予定表

1 申請時の資格教育プログラムの登録者数

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
登録者数	65名	12名	一名	一名	一名	一名	一名

2 申請時の科目ごとの開講予定表

科目名		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
1	地域・都市政策 総論	○	○	○	○	○	○	○
2	都市計画論	○	○	○	○	○	○	○
3	地域経済学	○	○	○	○	○	○	○
4	財政学	○	○	○	○	○	○	○
5	景観・まちなみ 保存政策	○	○	○	○	○	○	○
6	文化・観光政策	○	○	○	○	○	○	○
7	欧州の地域・都 市政策	○	○	○	○	○	○	○
8	米国の地域・都 市政策	○	○	○	○	○	○	○
9	キャリア・コミ ュニケーション 演習（※2014年 度以前の入学生 は「コミュニケ ーション応用演 習Ⅰ」）	○	○	○	○	○	○	○
10	政策学研究発展 演習Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○
11	政策学研究発展 演習Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○
12	政策学研究発展 演習Ⅴ	○	○	○	○	○	○	○

13	政策実践・探究 演習ⅠA（国内） ※2014年度前後 期受講生は「政 策実践・探究演 習ⅠA」	○	○	○	○	○	○	○
14	政策実践・探究 演習ⅡA（国内）	○	○	○	○	○	○	○
15	政策実践・探究 演習ⅠA（海外）	○	○	○	○	○	○	○
16	政策実践・探究 演習ⅡA（海外）	○	○	○	○	○	○	○
17	政策実践・探究 演習ⅠB（海外） ※2014年度後 期・2015年度前 期受講生は「政 策実践・探究演 習ⅠB」	○	○	○	○	○	○	○
18	政策実践・探究 演習ⅡB（国内）	○	○	○	○	○	○	○
19	Glocal Action Program	○	○	○	○	○	○	○